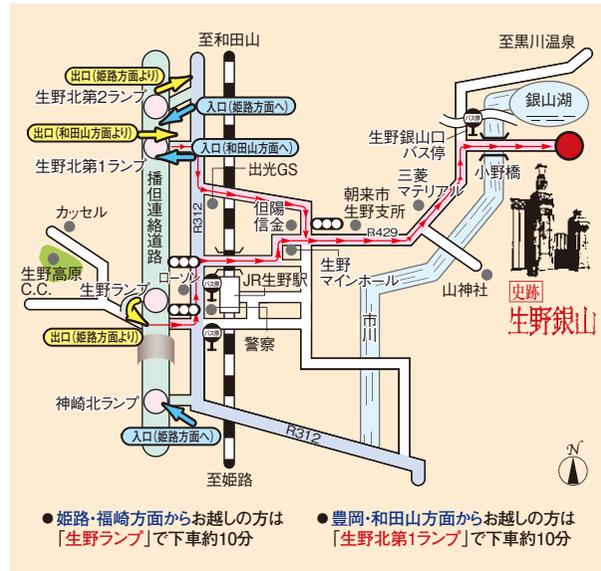


史跡 生野銀山

1200年の歴史とロマン
水と緑の美しい銀の里



- 営業時間 / [4月～10月] 9:10～17:20 (最終入場16:40)
[11月] 9:10～16:50 (最終入場16:10)
[12月～2月] 9:40～16:20 (最終入場15:40)
[3月] 9:40～16:50 (最終入場16:10)

※生野銀山文化ミュージアム(生野鉱物館2F)は最終入場時間が閉館の時間です。

- 定休日 / 12月～2月の3ヶ月間のみ毎週火曜日
(但し、火曜日が祝日の場合、翌日に振替)
年末年始

- ・ 観覧所要時間 / 約40分
- ・ 入場料金 (2024.7.1現在)

	30名以上	
大人	1,200円	1,000円
小中高	600円	500円

※生野鉱物館も入場いただけます

- ・ 駐車場料金 / 無料(普通車210台、大型バス10台)
- ・ 障がいのある方へ
障がい者手帳をお持ちの方は窓口到手帳を提示いただければ半額になります。
- ・ 坑道内は車イス・ベビーカーで通行できます。
- ・ ペット同伴で入場できます。
- ・ 入場料金、休業日等の詳細につきましては、お出かけの前に弊社ホームページ又はお電話にてご確認くださいませようお願いいたします。

■ 生野銀山文化ミュージアム(生野鉱物館2F)

株式会社 シルバー生野
〒679-3324 兵庫県朝来市生野町小野33-5
TEL.079-679-2010 / FAX.079-679-2755
http://www.ikuno-ginzan.co.jp



2024.07.01 改訂



生野銀山は大同2年(807)に発見されたと伝えられ、室町年間の天文11年(1542)には山名祐豊時代に銀鉱脈の本格的な採掘が始まりました。織田・豊臣の各時代を経て、江戸時代に幕府が「銀山奉行」を設置。その後「生野代官」が置かれ、やがて生野銀山は最盛期を迎えます。

明治元年(1868)、政府直轄鉱山となった生野銀山にフランス人技師ジャン＝フランソワ・コワニエが着任し、軌道や巻揚機の新設など数々の先進的施策により、めざましい近代化を成し遂げました。

明治22年(1889)には宮内省御料局の所管へ移され皇室財産に。次いで明治29年(1896)に三菱合資会社へ払い下げられ、国内有数の大鉱山として稼行しましたが、昭和48年(1973)に閉山し、長い歴史に幕を閉じました。

その間に掘り進んだ坑道の総延長は350キロメートル以上、深さは880メートルの深部にまで達しており、採掘した鉱石の種類は70種以上にも及んでいます。

平成29年(2017)日本遺産(「播但貫く 銀の馬車道鉱石の道」)に認定され近代化の礎となった鉱山の歴史を伝えています。

生野鉱山年表

年号	事項
大同 2年 (807年)	生野銀山発見と伝えられる
天文11年 (1542年)	古城山南表に銀石発見(銀山旧記) 銀の産出盛ん
天正 6年 (1578年)	織田信長が生野に代官を置く
天正10年 (1582年)	本能寺の変。豊臣秀吉が生野に代官を置く
慶長 5年 (1600年)	徳川家康が天下をとり、生野に奉行を置く
享保元年 (1716年)	奉行を廃し代官を置く
明治元年 (1868年)	明治政府官営鉱山となる
明治 9年 (1876年)	生野～姫路飾磨港間に生野鉱山寮馬車道(銀の馬車道)完成 工部卿・伊藤博文を迎え、生野鉱山製鉱所落成式を挙げる
明治18年 (1885年)	生野～神子畑間の鉱石運搬専用道路(鉱石の道)完成
明治22年 (1889年)	皇室財産となる
明治28年 (1895年)	生野～姫路飾磨港間を結ぶ播但鉄道開通
明治29年 (1896年)	三菱合資会社に払い下げ
昭和48年 (1973年)	鉱量枯渇等により坑内生産中止。鉱山部門閉山
昭和49年 (1974年)	史跡・生野銀山オープン
平成19年 (2007年)	近代化産業遺産に認定
平成23年 (2011年)	生野銀山文化ミュージアム(生野鉱物館)を新装オープン
平成26年 (2014年)	国の重要文化的景観に選定
平成29年 (2017年)	日本遺産に認定(「播但貫く 銀の馬車道鉱石の道」)



生野鉱物館

生野銀山文化ミュージアム (生野鉱物館2F)

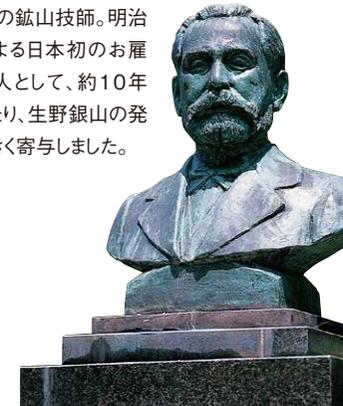
生野銀山の歴史と文化、鉱山の科学などをテーマとした展示や、生野で産出した「生野鉱」「桜井鉱」を始め貴重な鉱物標本(800点以上)、江戸時代の坑道の原寸大模型などを展示しています。



鉱物標本の展示

ジャン＝フランソワ・コワニエ (Jean-François Coignet, 1837-1902)

フランスの鉱山技師。明治政府による日本初のお雇い外国人として、約10年間にわたり、生野銀山の発展に大きく寄与しました。



生野銀山 GuideMap



朝来市指定文化財
菊のご門柱
(日本遺産構成文化財)
明治9年(1876)生野製
鉱所の正門として設置
されました。

お土産館

生野銀山オリジナル商品、銀製品、坑道内
貯蔵酒など各種お土産物を豊富に取り揃
えています。



鉱山資料館

江戸時代の銀山の様子を詳細に描い
た絵巻物、坑内模型などの資料を展示
しています。



坑内模型

朝来市指定文化財

金香瀬旧露頭群跡

坑道入口横の階段を上ると、露天掘跡が見
られます。露頭とは鉱脈が地表に現れた部分
で、昔はこれを探して後に地中へ掘り進
みました。写真は、広大な露天掘跡として著
名な「慶寿ひ」です。



金香瀬坑口(日本遺産構成文化財)

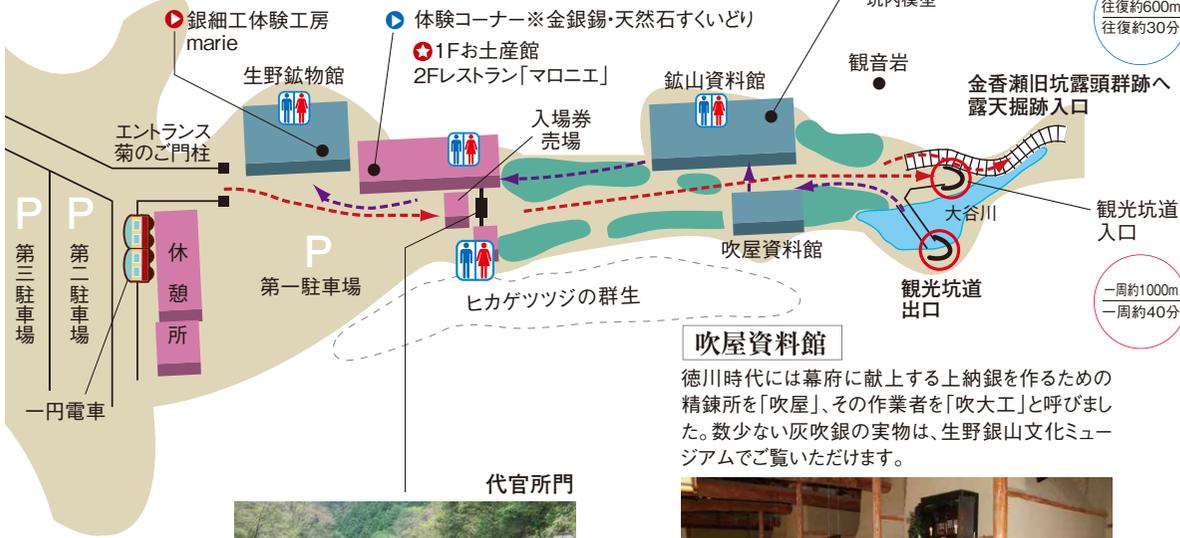
明治初期、ジャン＝フランワ・コワニエが築造し
たフランス様式のアーチ型の坑口です。



朝来市指定文化財

ヒカゲツツジの群生

全国的にも珍しいヒカゲツツジの群生は、3月下旬か
ら4月上旬に1000本が薄黄色の花を咲かせ、満開の
桜と併せて見えます。



代官所門



吹屋資料館

徳川時代には幕府に献上する上納銀を作るための
精錬所を「吹屋」、その作業者を「吹大工」と呼びまし
た。数少ない灰吹銀の実物は、生野銀山文化ミュ
ージアムでご覧いただけます。

観光坑道

銀山隆盛の歴史を今に伝える近代坑道「金香瀬坑」を観光坑道として公開しています。鉱員たちが命を託し、地中深く降りていったエレベーター立坑と、その巨大な巻揚ドラムは圧巻。近代的坑道に沿って、人が這って通った江戸時代の坑道に狸掘りの生々しいノミ跡や鉱脈をご覧ください。



シュリンケージ採掘跡
下部の坑道から採掘して掘った鉱石を、全部下に抜きとった跡です。



ボーリング作業
コアを採取して鉱脈をさがしています。



■ = Free Wi-Fi使用可 ■ AR = ARポイント



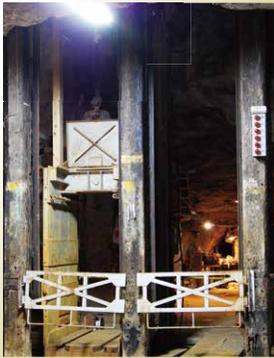
1日に15cm



狸掘り
江戸時代は、坑道を這いながら掘り進
み、鉱脈を探していました。



光栄立坑 巻揚機
この巻揚機は、昭和4年(1929)に製造
されました。



光栄立坑ケージ(エレベーター)
写真上の巻揚機で最深部は地下730m
まで坑内員などをのせて昇降していました。

超スーパー地下アイドル
『銀山ボーイズ』公開中!

超スーパー地下アイドル『GINZAN BOYZ』
メンバーは総勢60名。2017年夏デビュー!!

公式HP、X(Twitter)、Instagramはこちら

